

今号の  
表紙画家

# 漆の色、漆の肌合いを魅き出す 佐々木敏彦さん(高22回)

飯田市街から国道を西へ、大瀬木の交差点を少し登った高台に佐々木さんのアトリエがあり、窓からは南アルプスの峰々が一望できる。漆の香りが漂う室内には、大きな作品が十数点、筆や漆皿などの道具が並び、漆作家としての丹精な空間を感じさせる。

「私の作品のテーマは何かを描くというのではないし、従来ある器物などに漆を塗るといふ機能的な表現でもありません。漆の深い表情や漆そのものの質を感じさせることを意図して制作しています」



漆芸家。1951年阿南町生まれ。東京芸術大学工芸科卒。伝統的な素材である漆を使い新たな表現世界を築く。1986年漆のニ・ユー・エーブ展。1990年より数々の個展を開催し現在に至る。

いくつかの作品を拝見させていただく。一層もあろうかと思うほどの厚い板に和紙が表装され、下地の漆が塗り重ねられる。それを何度も繰り返ししながら漆を置いて表情を創っていくのだと。

「南信州の風土と、漆というものを通して表現していく。色、音、匂いの質感を持つて転化され浮かび上がってくるのです。それは、漆の表情に委ねるような行為です」漆の持つ表情にさまざまな言葉を宿したいと模索しています。漆との出会いをお訊ねすると、「東京芸術大学2年の専攻選択のときに、後の師匠となる高橋節郎先生の作品に出合ったのです」「作品は素材の発する深い魅力を満たえ、漆でこんな表現が可能なのかと、絵画の世界とはまったく異なる素材の発する表情に感動しました」と。漆の世界に導かれるような出会いがあったそうです。

(取材・福澤郁文)

『稲穂』は発刊10号になりました  
バックナンバーのご案内

この『稲穂』は首都圏支部の同窓生には、総会の案内状とともに送付しておりますが、首都圏以外の同窓生、もしくは同窓生以外の方でも、ご希望の方には頒布価格500円(1冊、送料込み)でお分けいたします。頒布ご希望の方は、左記まで。

一六〇〇一〇一四 東京都新宿区内藤町一六  
御苑ハイツ五〇七(株)デザインFF内  
電話☎〇三三三三二一五七六八  
FAX☎〇三三三三二一五七六七  
E-mail: KYX06762@nifty.com

